

【短報】マルガタオオヨツボシゴミムシ幼虫の採集記録と成虫の食性等について

筆者はマルガタオオヨツボシゴミムシ *Craspedophorus mandarinus* (Schaum, 1853) の幼虫を採集し、成虫を羽化させて若干の観察をしたので報告する。

1♀ 幼虫 (図1), 沖縄県石垣市八島町, 14. VI. 2015, 筆者採集・飼育, 24. VI. 2015, 羽化, 6. VII. 2015, 死亡, 成虫の標本は筆者保管。

幼虫の採集場所は八島公園の芝地にある倒木下で時刻は午前8時頃, 体長2 cm くらいで大きさ, 採集場所からマルガタオオヨツボシゴミムシの可能性が高いと思われた。自宅に持ちかえり, その日の夜に庭土を入れた小型の容器に放すと間もなく土中に潜ってしまった。発見地点には前日の夕刻にはいなかったもので, 蛹化場所を求めて徘徊していたところであったと思われる。幼虫は再び地表に出てくることはなく, そのままの状態です室内に置いたところ6月24日に羽化脱出した成虫を確認した。

同公園には2014年7月, 10月, 2015年3月に訪れていずれも複数の成虫を採集していたが, 今回初めて成虫が確認できずに幼虫を採集したもの



図1. 幼虫 (6月14日) .



図2. ナメクジ捕食中の成虫 (6月27日) .

である。本種は1月, 12月の採集記録もある(楠井, 2011) ので成虫はほとんど1年を通して見られるものと思われるが, 越冬後春先に産卵, 6月に新成虫になると推定される。

成虫は貝類を捕食すると思われたので, 羽化直後にナメクジを与えるとすぐに攻撃して食べ始めた。ナメクジは翌日1頭を与え, 1日おいて6月27日にはミミズを与えた。ナメクジに比べて攻撃に積極さを感じられず表面を軽く噛む程度で落ち着きがなかったため, 改めてナメクジを与えると猛然と攻撃して食べ始めた (図2)。貝類を好むのは間違いないようである。この時点では上翅はすでに硬化して当初淡色だった斑紋は濃色になり, 特有の臭気も放つなど通常の成虫と変わらなくなっていた。

満腹となると食欲が落ちるので, 1日おいて29日にカタツムリを与えた。殻によじ登り表面や殻口の粘液を舐めるような行動をとったが, 殻の内部まで食い入るような行動はしなかった (図3)。7月3日にはキセルガイも与えた。軟体部に噛み付こうとしたが, 殻に引っ込んでしまうとそれ以上攻撃しようとしなかった。その後再度カタツムリを与えたが前回と同様の行動をとっただけで結局捕食には至らなかった。そのあとすぐにナメクジを与えると前回同様, 攻撃して捕食した。

しばらく飼育して食性等いろいろ確認したかったのであるが, 7月6日に急死してしまった。

末文ながら, 報告に当たりご教示を賜った森田誠司氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

楠井善久, 2011. マルガタオオヨツボシゴミムシの石垣島における越冬について. さやばねニューシリーズ, (1): 6.

(須田 亨 372-0006 伊勢崎市太田町 770-4)



図3. カタツムリの粘液を舐める成虫 (6月29日) .